

# 希望

チューリッヒ日本人学校便り

平成 28 年 10 月 17 日発行

第 22 号

発行人 校長 鈴木史良

## やってみなければわからない

—— あきらめるよりは、まず挑戦してみよう ——

本日から後期の学習が始まりました。秋休みを終えて学校に登校した子どもたちは元気いっぱいでした。「挨拶」もしっかりできており、「語先後礼」（相手の目を見て挨拶を発声し、そのあとおじぎをする）が身につけていました。図書室に集合した時の「くつならべ」も美しさを感じられました。

体験入学生たちを迎えたなかでの全校朝礼で、次のような話をしました。

来年11月11日（土）にチューリッヒ日本人学校30周年記念式典を挙げていただきます。現在、式典の中で記念講演していただける方を探しているところです。そんななか、講演者としてスイス出身の人気タレントの春香クリスティーンさんに在校当時の思い出やなぜ日本に行ったか等をお話していただいたら、記念行事全体が華やかに盛り上がるのではないかと案もあり、その根拠を子どもたちに示しました。

### 1 なぜ、春香クリスティーンさんなのか？

- ① 同じ校舎で学んだ先輩であり、チューリッヒ日本人学校にゆかりがあること。
- ② 日本の政治や落語、歌舞伎などの伝統的なものに強い関心をもっていること。
- ③ 4か国語（日・独・英・仏）を話す語学力も含めたすぐれたコミュニケーション能力をもっていること。

### 2 春香クリスティーンさんから学んでほしいこと

#### ① グローバルな思考ができる力

日本の若者の多くは日本での安定した生活や文化に満足し、あえて外の世界へ出ようとしないうる消極的な傾向があると言われていています。日本の子どもたちだけでなく、海外で学ぶ子どもたちこそ、「何のために学ぶのか」を知るために、「今どんな世界を生きているか」を問う力をつけ、積極的に世界へ目を開いてほしいというのが私の願いです。

日本の現状の一例を考えると、食糧自給率40%、エネルギーにいたっては自給率がわずか5%しかありません。外国からの輸入なしでは日本は存在できませんし、今輸入できる国が永久に供給してくれるとも限りません。最悪の事態を回避し、いろいろな国の人々の立場や考え方を知り、安定した需要や供給、秩序等を生み出していくためにも、グローバルな視野に基づいた思考を育てることが大切だと思っています。



正しい姿勢で全校朝礼に臨む子どもたち

## ② 誰からも信頼されるコミュニケーション力

日本の伝統芸能や政治に関心をもつ春香さんは、たいへんな勉強家だと思います。自分の中にある日本人を見つけ出そうとしているのではないのでしょうか。

私の海外経験から申せば、いろいろな国の人々と話をした時、自分の国の文化や歴史を自分の言葉で語るができる人ほど信頼できる場合が多いということがありました。積極的に世界に出ていくには、語学だけが堪能であってもだめだと思います。相手の信頼を得ることのできるコミュニケーション力がたいせつだと思います。

## 4 春香クリスティーンさんに来校してもらうために

かなり無理があることはじゅうじゅう承知なのですが、できるだけ努力をしてみたいと思っています。それでも、どうしても不可能な場合は潔くあきらめることにします。

秋休みのある日、知り合いを通じて、春香クリスティーンさんの所属プロダクションへ連絡してみました。すると、プロダクションの方から次のような返答をいただきました。

考えてみましょう。企画書を作ってくるとありがたいのですが。

この意味をどう捉えたらよいのでしょうか。少なくとも「考えてくれる」との言葉をいただきました。ただ、そのための企画書も要求されています。こうなったら「企画書」を作成するしかありません。そこで、こう返答しました。

今週中に企画書をお送りします。

企画書がどんなものかはまったく分かりませんが、とにかくそれらしきものを作成することにしました。それだけでは足りないので、次のことも加えました。

子どもたち全員が春香クリスティーンさん宛に心をこめた手紙を書きます。

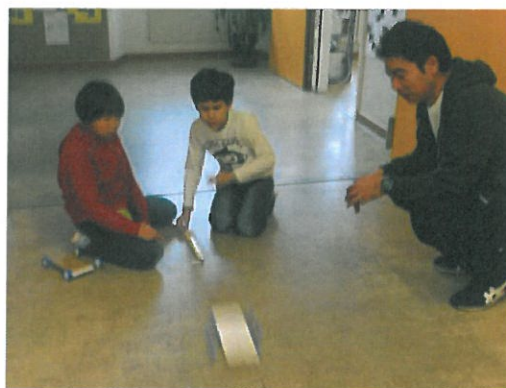
朝礼でこの提案をした時、子どもたちの反応はとても素直で、私の提案をこころよく受け入れてくれました。いやだという子どもは一人もいませんでした。

だめかもしれないけれど、やってみなければわからない。最初からあきらめたりせずに、子どもたち、教師とも精一杯取り組んでみましょう。

## 体験入学生を迎えて

現地校がまだ秋休み中なので、今週は多くの体験入学生たちでにぎやかです。現地校の友達はまだ休み中なのに、日本人学校へ来て学ぶという意欲は誰でもまねできるものではありません。きっと強い決意、意欲を心にいだいて体験入学しているのでしょう。すごいです。

短い期間ですが、体験生にとって本校でのさまざまな「学び」が日本文化を身につける一助となり、楽しい経験となって結実することを願っております。



小3理科;廊下でコム（コム）の性質を調べる実験